

市では、地域住民による主体的なまちづくりを推進するため、さまざまな年代や分野に対応した、地域の担い手育成を行っています。

## まちづくり実践塾「ぬま大学」

「気仙沼で何かやってみたい」という若者が、気仙沼で実行するまちづくりプラン（マイプラン）を作り上げていく実践塾。約半年間の講義を通して、自分や地域について考え、多様な人とつながりながらマイプランを作成し、最終報告会で地域の人に向けて発表します。（修了生 103 人（1～8期））



第8期最終報告会  
の様子を  
オンラインで  
視聴できます

**市人材育成事業はこのほかにも...**  
●アクティブ・ウーマンズ・カレッジ  
(AWC) …18歳～40代の女性対象/  
延べ修了生92人  
●気仙沼経営人材育成塾…  
経営者や起業家対象/修了生33人  
※先行事業の経営未来塾の修了生は85人  
※各事業の修了生数は令和5年2月1日現在



## ぬま大学「ドローン×気仙沼」可能性は無限大！



▲広報けせんぬま 2021年3月1日号の表紙には、佐藤さんがドローンで撮影した写真を掲載させていただきました。

### 佐藤 剛士 さん

Profile / 1980年生まれ。塩竈市出身。「ぬま大学」第8期生。建設コンサルタントとして、国土交通省業務に従事。ぬま大学では、ドローンを使った気仙沼の魅力発信や地域課題に対する取り組みを発表し、市長賞を受賞した。現在はドローンを使った写真・動画撮影や調査等を行っている。

「これまでは  
高専の学生時代にまちづくりに興味を持ち、兵庫県の大学に進学。阪神・淡路大震災後の復興に関する調査や諸問題に関わる経験をしました。その後就職し、2016年に建設コンサルタントとして気仙沼に赴任し、気仙沼に移住しました。」

「ぬま大学に参加しようと思ったきっかけは  
2020年の秋からドローンを始め、昨年には大分県玖珠町で行われたドローンムービー世界大会に出場しました。入賞はできませんでしたが、地域振興券5千円分と温泉入湯券をいただき、町で飲食や温泉を楽しみました。」

「その地元還元策が地域振興に有効と感じ、自然環境豊かな気仙沼で、ドローンを使って大会のようなことができないかと思いました。それを実行する手段もツテもありませんでした。そんな時に、ぬま大学のことを思い出し、参加を決めました。転入の際に市役所に置いてあったチラシをもらい、それ以来ずっと興味があったのです。」

- 「プランの内容、取り組んできたことは  
気仙沼でドローンを使うメリットについて5つ挙げ、取り組んできました。」
- ①「ドローン×SNS」…主にインスタグラムで、動画や写真を通じて気仙沼の魅力を発信しています。
  - ②「ドローン×操縦体験」…操縦体験やドローンの景色を撮影できるゴーグルで空を飛んでいるような体験を通じて、ドローンを身近に感じてもらいました。
  - ③「ドローン×マリナークティビティ」…サーファーから誘いを受け、サーファーの姿を空撮しました。
  - ④「ドローン×撮影サービース」…大島でドローンの練習をしている時に遭遇した女子高校生やおかえりモネの聖地巡礼で訪れていた観光客の方々などをドローンで撮影し、その場でデータをプレゼントしました。それがSNSで広がり、気仙沼の絶景もお土産になるという自信を持ちました。
  - ⑤「ドローン×地域課題」

「活動中での気づきや感じたこと、周囲の反応  
…大島に小亀山という多種類の桜が植えられている場所があります。その状況を調べるために撮影してほしいと大島の方から依頼があり、開花前から約一カ月間空撮し、動画を作成しました。」

「活動中での気づきや感じたこと、周囲の反応  
自分の心が動く、心のままに動くことが大事だと思いました。素直に誰かのためにと想ったら、それが自然とSNSなどを通じて世界に広がっていく、そんなことを実体験できたと思います。また、撮影した方々が皆さん笑顔になってくれる、すごいと言ってくれることは素直にうれしいと思いました。」

「今後は  
気仙沼でのドローンの認知度が上がり、ドローンがもっと自由に飛ぶようになってほしいです。」

「そして、いつかは気仙沼でドローンの大会を開催したいと思っています。何か一緒にやってみてほしい、ドローンで撮ってほしいという方はぜひ声をかけてください！」

# 気仙沼市人材育成事業

# 自分も何かやってみたい!

## 気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード

気仙沼に在学中の高校生が、自分の興味関心をプロジェクトにして地域で実践したこと、これから実践したいこと(マイプロジェクト)を地域の人に向けて発表します。(延べ修了生 120人)



今年度の様子をオンラインで視聴できます(申込必須)

## アクティブコミュニティ塾

40代以上の市民が受講者同士のグループワークや他市町のコミュニティ活動の事例研究などを通じて、地域を元気にする活動について学びます。(延べ修了生77人)

### 気仙沼の高校生

### マイプロジェクトアワード

## 気仙沼を日本一面白い港町に!

### えんどう こうだい 遠藤 光大 さん

Profile / 2005年生まれ。市内松岩出身。気仙沼高校2年生。「気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード2022」では、地域の高校生と大人をつなげる取り組みを発表し、市長賞を受賞した。現在は自身が立ち上げた気仙沼若者団体「IAC」の代表を務め、年代や地域を超えた場づくりを模索している。



▲昨年7月に「IAC」主催で行われたヒップホップとスケートボードを組み合わせたイベントでの様子。



「マイプロジェクトアワードに参加しようと思ったきっかけは

中学3年生の時に初めて探究学習を体験し、その時にサポートしてくれた方から、「高校生になったら、マイプロジェクトに参加してみない?」と話があり、興味を持ったことがきっかけです。中学3年生の冬には、自分で市内各所の動画や写真を撮影・編集し、SNSで発信しました。そのような経験から気仙沼の魅力発信するのは面白いと感じ、もっと何かしたいと思うようになりました。

「プロジェクトの内容、取り組んできたことは

自分自身、様々な人と交流したいという想いが元々あり、年代や地域を超えた場づくりを行うプロジェクトを考えました。そして、同世代と一緒にできることをしてみたいと、気仙沼若者団体「IAC」を立ち上げました。団体名は「気仙沼に面白いアイデア、アクション、コミュニケーション」の頭文字から取ったものです。高校生を中心とした15人のメンバーでサポートしながら活動を

行っています。

昨年7月には団体主催でヒップホップとスケートボードを組み合わせた屋外イベントを開催しました。アーティストが遊覧船をバックにライブをしたり、子どもや若者がスケートボードを楽しむなど、合計154人が参加してくれました。でも「なんか違う...」と思いました。ターゲットとしていた高校生の参加が少なかったのです。

他のイベントではどうなのかと疑問に思い、市内外のイベントに参加しましたが、高校生はほぼいませんでした。高校生は部活や勉強で忙しく、イベントに参加する人は多くないうえ、交流する場も少なかつたのです。そのような経験から、年代間に壁があるのは当たり前で、「その当たり前を壊したい」「普通じゃない仕組みを作りたい」と思うようになりました。

そして、昨年9月に高校生と大人の地域づくり交流会を開催しました。高校生と大人各10人ずつ計20人が、空き家の模型を使って、一緒に地域課題について考え、関われる場を作りました。交流会を通じて、新た

な関係ができたのは大きな成果でした。大人と高校生との壁に「ヒビ」を入れたかなと思います。

「活動中での気づきや感じたこと、周囲の反応

団体メンバーの気持ちも徐々に高まり、雰囲気も良くなりました。また、同級生や地域の人達から「どんなことしてるの?」「頑張ってるね」と、良い反響や応援の声をいただいています。いつも活動を理解し支えてくれる方々にとても感謝しています。

「今後は

今の活動は準備段階だと思っています。「気仙沼を日本一面白い港町に!」の土台作り中で、今後人も巻き込みながら活発に活動を続けていきたいと思っています。そして、地域づくりや課題解決などに取り組んでいる全国の若者をつなげるような取り組み、仕組みを作っていきたいと思っています。皆さんと何か一緒に面白いことをやってみたいと思っていますので、ぜひ声をかけてください!